＜2024年7月22日号 内航海運新聞掲載＞

第９回「内航船の日」
「海から届ける写真展」開催中
下町の銭湯「さくら湯」で　31日まで

内航海運新聞（令和６年７月22日号）での記事を紹介いたします。　以下転載

第９回「内航船の日」
「海から届ける写真展」開催中
下町の銭湯「さくら湯」で　31日まで

既報のとおり、今年で９年目を迎える7月15日の「内航船の日」を記念したＰＲイベント「海から届ける写真展」が、全日本内航船員の会の主催により東京スカイツリーのふもとにある下町の銭湯「さくら湯」のロビーで開催中だ。会場には、内航船員から寄せられた写真作品が展示され、内航海運業界のＰＲに大きく貢献している。

「内航船の日」とは、内航船が好きで、船員たちと交流してきた陸上の一般市民が、「ナナ・イチ・ゴ」→「ナイコー」であることから、７月15日を「内航船の日」にしようと呼びかけ、２０１５年に日本記念日協会によって認定されたもの。今年も記念日当日には、ＳＮＳ上で「＃内航船の日」が溢れ、内航船やそこに乗り込む船員たちを盛り上げた。

今年は会場をこれまでの「大黒湯」から同じく地元住民に愛される下町の銭湯「さくら湯」に移し、全国で働く現役の内航船員から寄せられた約２００点の写真の中から厳選された18点を展示。船上からしか見ることのできない朝焼けや夕焼け、透き通った青空、海上で交錯する船舶群などなど、どれも雄大な自然の中で懸命に働く船員の息吹が感じられるような作品ばかりだ。

「さくら湯」を訪れるのは、内航船とは縁のない地元住民が中心。初めて内航船、内航船員という言葉に触れる人も多い。全日本内航船員の会の松見準事務局長は、「内航船員が撮影した作品を見て、大自然の中で頑張っている船員という仕事があることを多くの人に伝えたい。もちろん時化で厳しい時もあるが、晴れ晴れと

したきれいな海を眺めると、何にも変えられない気持ちになり、また海が好きになっている。荒れた海も含めて、すべてが魅力的な仕事だと思ってもらえたらうれしい」と語る。

写真を通じて内航船員と同じ景色を共有することで、人々は船員という存在をより身近に感じることができるのだろう。お風呂上がりの休憩時間に作品を眺めていた女性が、「どれも見たことのないすごい風景。プロ級の写真ね」という言葉は、まるで自分の子供や親しい友人に語りかけているようにも聞こえた。

「写真を見て内航船や内航船員に興味を持ってくれ、『自分でも調べてみる』と言ってもらえた時はやってて良かったと思える瞬間。船員不足は内航業界だけの課題だと考えられがちだが、自分の生活に直結していると分かると、一般の人でも自分に何ができるのか考えてくれる。業界内にとどめるのではなく、一般の人と考えることが重要であり、『内航船の日』はそんな両者を結ぶツールになっている」（松見事務局長）。

同展の開催は7月31日まで（月曜日定休）。「さくら湯」の所在地は東京都墨田区業平４―６―５。東京メトロ半蔵門線、東武伊勢崎線、都営浅草線、京成押上線「押上駅Ｂ1出口」より徒歩4分。東京スカイツリーより徒歩9分。入浴料は大人５２０円、中学生４２０円、小学生２００円、幼児１００円（サウナ追加料金２００円）。